

(別表－1－1別紙) 堆肥の目安量の根拠

堆肥の目安量は、環境保全及び農作物生育の面から、各作物の基肥窒素量（施肥基準に示されている量）の30%を堆肥の有効窒素成分量で代替する施用量である。
 想定した堆肥は表1のとおりであり、堆肥の有効窒素成分量は以下の式で算出できる。

$$\text{堆肥の有効窒素成分量 (kg/10a)} = \text{堆肥施用量 (kg/10a)} \times \text{窒素全量 (現物\%)} \times \text{窒素肥効率}^*(\%)$$

※窒素肥効率とは、家畜ふん堆肥に含まれる窒素の肥料としての効果を化学肥料窒素と比較した指数で、化学肥料と同等ならば100%、化学肥料の半分ならば50%である。

表1 堆肥の目安量で想定した堆肥の窒素全量と窒素肥効率

種類	水分 (%)	窒素全量 (現物%)	窒素肥効率 ³⁾ (%)
牛ふん堆肥 ¹⁾	50.7	1.14	18
豚ふん堆肥 ¹⁾	40.7	2.05	26
鶏ふん堆肥 ¹⁾	29.4	1.91	46
土づくり的堆肥 ²⁾	50.0	1.00	16

- 注1) 各種家畜ふん堆肥の水分及び窒素全量は「家畜ふん堆肥利用促進ナビゲーションシステム」における県内流通堆肥の平均値。
 2) 土づくり堆肥の成分は、施肥基準の土づくりの効果の高い堆肥の定義（現物当たり窒素全量1%以下）に基づいたものであり、副資材入り牛ふん堆肥を想定したものである。
 3) 窒素肥効率は千葉県施肥設計支援システム「エコFIT」による。

化学肥料使用量（窒素成分量）水準別の堆肥の目安量は表2のとおりである。
 ただし、以下の作物（作型）については、農作物の栄養生理等を考慮した目安量である。
 トマト（促成）、ミニトマト（促成）、きゅうり（促成）、なす（促成、半促成（2～11月収穫）、ピーマン（促成）

表2 化学肥料使用量に対応した堆肥の目安量 (kg/10a)

区分	化学肥料使用量 (窒素成分量 kg/10a)	牛ふん堆肥	豚ふん堆肥	鶏ふん堆肥	土づくり的堆肥
水稻	4.5	1,300	500	300	1,700
畑作物	1.0	400	100	100	500
	1.5～3.0	500	200	100	600
	3.5～6.0	900	400	200	1,200
	6.5～10.0	1,400	500	300	1,800
野菜	1.5～5.0	800	300	200	1,000
	5.5～10.0	1,600	600	400	2,000
	10.5～15.0	2,300	900	500	3,000
	15.5～20.0	3,100	1,200	700	4,000
	20.5～25.0	3,900	1,500	900	5,000
果樹	1.5～5.0	600	200	100	800
	5.5～10.0	1,200	500	300	1,600
	10.5～15.0	1,800	700	400	2,300
	15.5～20.0	2,400	900	500	3,000